

都市再生整備計画 事後評価シート
南千里丘地区

平成24年 2月

大阪府摂津市

様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	大阪府	市町村名	摂津市	地区名	南千里丘地区			面積	11.1ha			
交付期間	平成19年度～平成23年度	事後評価実施時期	平成23年度	交付対象事業費	1,167百万円	国費率	0.400					
1)事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業	基幹事業	事業名 道路:区画道路1号線香露園交差点改良事業、境川歩行者専用橋2号架設事業、学園町中央線道路拡幅事業、千里丘南千里丘線歩道拡幅事業、地域生活基盤施設:阪急北側・南側改札口前自転車駐車場整備事業、阪急北側・南側改札口前広場整備事業、土地区画整理事業:南千里丘土地区画整理事業									
		提案事業	まちづくり活動推進事業:まちづくりワークショップ開催									
	当初計画から削除した事業	基幹事業	境川歩行者専用橋1号架設事業	削除/追加の理由 境川を暗渠化し、上部を親水空間として整備することから、新駅改札口までの歩行者動線の確保が図られるため、当該事業を廃止。				削除/追加による目標、指標、数値目標への影響 影響なし				
		基幹事業	境川右岸自転車歩行者専用道整備事業	遊歩道として整備するため、交付対象事業を高質空間形成施設に変更することから、当該事業を廃止。				影響なし				
		基幹事業	境川左岸自転車歩行者専用道整備事業	境川親水化整備区間を高質空間形成施設、残区間を境川自転車歩行者専用道整備事業として整備することから、当該事業を廃止。				影響なし				
		提案事業	なし	-				-				
	新たに追加した事業	基幹事業	境川親水化整備事業	自然環境と調和した都市景観を創出し、多世代が安心して定住できる都市型居住環境のまちづくりを更に推進するため、当該地区の東部を流れる境川を暗渠化し、上部にみどりあふれる水辺空間の整備を図るため、当該事業を追加。				目標4:生活環境に"潤い"や"やすらぎ"を与え、憩いの場、環境学習の場として親水空間を創出し、自然的環境と共生する、水とみどりにふれあうまちづくりをめざす。(追加) 指標4:レクリエーション開催回数(追加) 目標値:10回(追加)				
		基幹事業	阪急南側改札口前広場内自転車駐車場整備事業	阪急南側改札口前広場の一部を自転車駐車場として整備することから、新駅周辺に十分な自転車駐車場を確保。				影響なし				
		基幹事業	境川自転車歩行者専用道整備事業	境川右岸自転車歩行者専用道整備事業と境川左岸自転車歩行者専用道を一本化するため、当該事業を追加。				影響なし				
		基幹事業	境川遊歩道等整備事業	境川右岸・左岸自転車歩行者専用道整備事業のうち、親水化整備区間を高質空間形成施設として整備するため、当該事業を追加。				影響なし				
提案事業	事業評価分析調査	今後のまちづくりを検討するため、事業効果の分析調査を追加。				影響なし						
交付期間の変更	当初	平成19年度～23年度	交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響									
	変更	なし										
2)都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標		従前値	目標値		数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期	
		単位	基準年度	目標年度		モニタリング	評価値					
	指標1	市内鉄道乗降客数	人/日	76,700	H16	80,000	H23	-	77,337	△	あり なし ●	平成27年8月
	指標2	定住人口	人	230	H18	2,230	H23	-	1,728	△	あり なし ●	平成27年8月
	指標3	公共施設利用者	人/月	9,000	H17	15,000	H23	-	9,000	△	あり なし ●	平成27年4月
指標4	レクリエーション開催回数	回/年	6	H19	10	H23	-	10	○	あり なし	平成27年4月	
3)その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指標		従前値	目標値		数値		目標達成度※1	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期	
		単位	基準年度	目標年度		モニタリング	評価値					
	その他の数値指標1	摂津市駅乗降客数	人/日	0	H19		5,768			関連事業「阪急新駅設置事業」による新たな交通拠点の整備に伴い、駅周辺に不足するインフラ整備や末端交通の結節の整備により、摂津市駅乗降客数が増加した。	平成27年8月	
	その他の数値指標2	地区内新規雇用者数	人	0	H19		340			計画的な開発誘導による土地利用が行われ、産・官・学・市民による魅力あるまちづくりによって、新たな商業・業務系の土地利用が行われたことにより、新規雇用者数が増加した。	平成27年4月	
その他の数値指標3	公共施設機能再配置数	件	0	H19		5			公共施設機能の機能集積・高度化を行うため、交通利便性の高い駅前に公共施設を設置し、市民の交流活動等拠点として、一体的な運用を図っている。	-		
4)定性的な効果発現状況	・当該地区では、市民の声を反映させるべく、南千里丘まちづくりワークショップを実施し、良好なまちづくりを目指した「南千里丘周辺地区まちづくりガイドライン」を策定している。ガイドラインを踏まえ、大規模工場の跡地の適切な土地利用を誘導するため、市民参加による「南千里丘周辺地区地区計画」の指定を行い、建築物の緑化率を25%に設定し、緑化推進を図るとともに、都市景観についても、「南千里丘周辺都市景観形成地区」の指定を行い、周辺地域と調和を図るとともに、地区内を放置駐輪禁止区域に指定するなど、良好な都市環境を形成している。											
5)実施過程の評価	実施内容			実施状況				今後の対応方針等				
	モニタリング	なし		都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				なし				
	住民参加プロセス	まちづくり懇談会の開催		都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				● 協働のまちづくりを進める上で、先進的な事例となっており、同様の手法で継続していくとともに、懇談会の意見を今後のまちづくりに活用する。				
	持続的なまちづくり体制の構築	なし		都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				なし				

様式2-2 地区の概要

南千里丘地区(大阪府摂津市) 都市再生整備計画事業の成果概要

まちづくりの目標	目標を定量化する指標	従前値	目標値	評価値			
大目標: 「摂津の顔」として、将来に夢のある継続的で発信力のある拠点づくり 目標1: 阪急京都線の新駅設置によるインパクトを最大限に活用し、本市のアイデンティティ(主体性)の確立に向けた新たな都市拠点のまちづくりをめざす。 目標2: 駅前という立地特性を活かした、利便性・快適性の高さを享受でき、水やみどりあふれる自然環境と調和した都市景観を創出し、多世代が安心して定住できる都市型居住環境のまちづくりをめざす。 目標3: 「つどい、いこい、にぎわう好感都市づくり」を推進するため、シビックゾーン内の老朽化した公共施設の機能集積および高度化・高次化を図り、本市の顔にふさわしい市民交流の拠点整備のためのまちづくりをめざす。 目標4: 生活環境に“潤い”や“やすらぎ”を与え、憩いの場、環境学習の場として親水空間を創出し、自然的環境と共生する、水とみどりにふれあうまちづくりをめざす。	市内鉄道乗降客数 単位:人/日	76,700	H16	80,000	H23	77,337	H23
	定住人口 単位:人	230	H18	2,230	H23	1,728	H23
	公共施設利用者 単位:人/月	9,000	H17	15,000	H23	9,000	H23
	レクリエーション開催回数 単位:回/年	6	H19	10	H23	10	H23



まちの課題の変化	<ul style="list-style-type: none"> ・新駅開業に伴う歩行者・自転車導線の変化による安全な歩行者空間の確保が必要とされる。 ・新たな都市拠点が形成されたことにより、市内の既存都市拠点への移動に伴う交通ネットワークの整備が不足している。 ・踏切による交通渋滞や踏切事故による公共交通機関への端末交通の定時性が不良となっている。
今後のまちづくりの方策(改善策を含む)	<ul style="list-style-type: none"> ・都市計画道路整備により、千里丘三島線を中央都市軸とした市内の既存都市拠点間の交通ネットワークの充実を促進し、都市拠点の相互補完・機能連携を図る。 ・交通渋滞や踏切事故の抜本的解消、鉄道による市街地の分断や地域コミュニティの分断解消を図るべく、阪急京都線連続立体交差事業の早期実現を目指す。 ・地区計画や景観形成地区指定によって整備された良好な街並みの機能維持に努めるとともに、産・官・学・市民の連携によるイベント開催や協働による住民主体の環境保全活動等の地域活動支援を行う。